

17歳の新女王、誕生！

第33回皇后盃全日本女子柔道選手権大会

体重無差別で女子の日本一を争う皇后盃全日本女子柔道選手権大会が4月22日(日)、横浜文化体育館で開催された。この大会は今夏、アゼルバイジャン・バグーで開かれる世界選手権大会の女子重量級最終選考会を兼ねている。注目はそれだけではなく、朝比奈沙羅(パーク24)の2連覇なるか、あるいはその女王を破って若き素根輝(南筑高校3年)が玉座に就くのか、熱戦への期待が高まった。

もう一人の注目選手は昨年本大会で準優勝し、その後6月の実業団体以来豊から遠ざかっていた田知本愛(ALSOK)。しかし、緒戦で左膝を負傷。その試合はなんとか勝ち上がったものの、次戦(3回戦)を棄権し姿を消した。

朝比奈、素根は順当に勝ち上がり、二人が畳の上で顔を合わせたのは準決勝戦。最初に朝比奈に「指導」が与えられる。そこからまた試合は動かず、残り時間1分12秒で二人に「指導」。このままGSに入るかと思われたところで朝比奈の放った払い巻き込みに素根の態勢が崩れて、主審は「有効」のコール。勝負が決したかと思われたが、直後にその「有効」は取消となり、試合はGSへもつれ込んだ。

GSに入ると、果敢に攻めに出る素根の前に朝比奈は防戦状態となり、ついに3つ目の「指導」が朝比奈に。2週間前の全日本選抜体重別に次ぐ素根の勝利となった。

その素根と決勝で対戦したのは富田若春(コマツ)。やはりGSに勝負が持ち込まれる熱戦となったが、ここでも素根の積極的な攻めが光り、GSの末、反則勝ちで富田を下した。素根は大会初出場にして初優勝。高校生での大会優勝は、最年少優勝記録を持つ阿武教子以来となる。(素根は史上2番目の若さでの優勝)

優勝【素根 輝】

「初出場ですが、絶対に優勝したいという強い気持ちで大会に臨みました。世界選手権に絶対に出たいので、ここにかけてきました。(朝比奈選手との対戦は)自分からガンガン攻めることができよかったです。一度「有効」となったときはちょっと焦りましたが、絶対に負けないという強い気持ちで戦いました。決勝も集中力を切らせず、練習量と絶対に負けないという気持ちでしっかり勝つことができました。2020まで、目の前の大会を一つひとつ勝っていく気持ちで頑張りたいです」